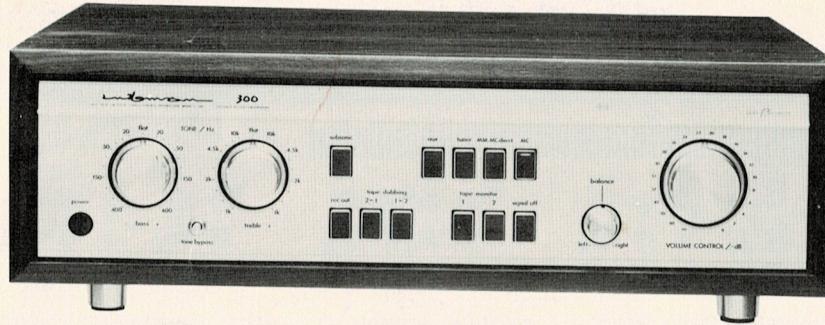


C-300

取扱説明書



目次

各部の名称と用途	1 ~ 3
接続のしかたと操作	4 ~ 7
テープデッキの接続と操作	7
ブロック・ダイヤグラム	8
サービス修理に出される前に	9
特性図	10
規格	11
アフターサービスと品質保証について	12

C-300をご採用いただきましてありがとうございます。

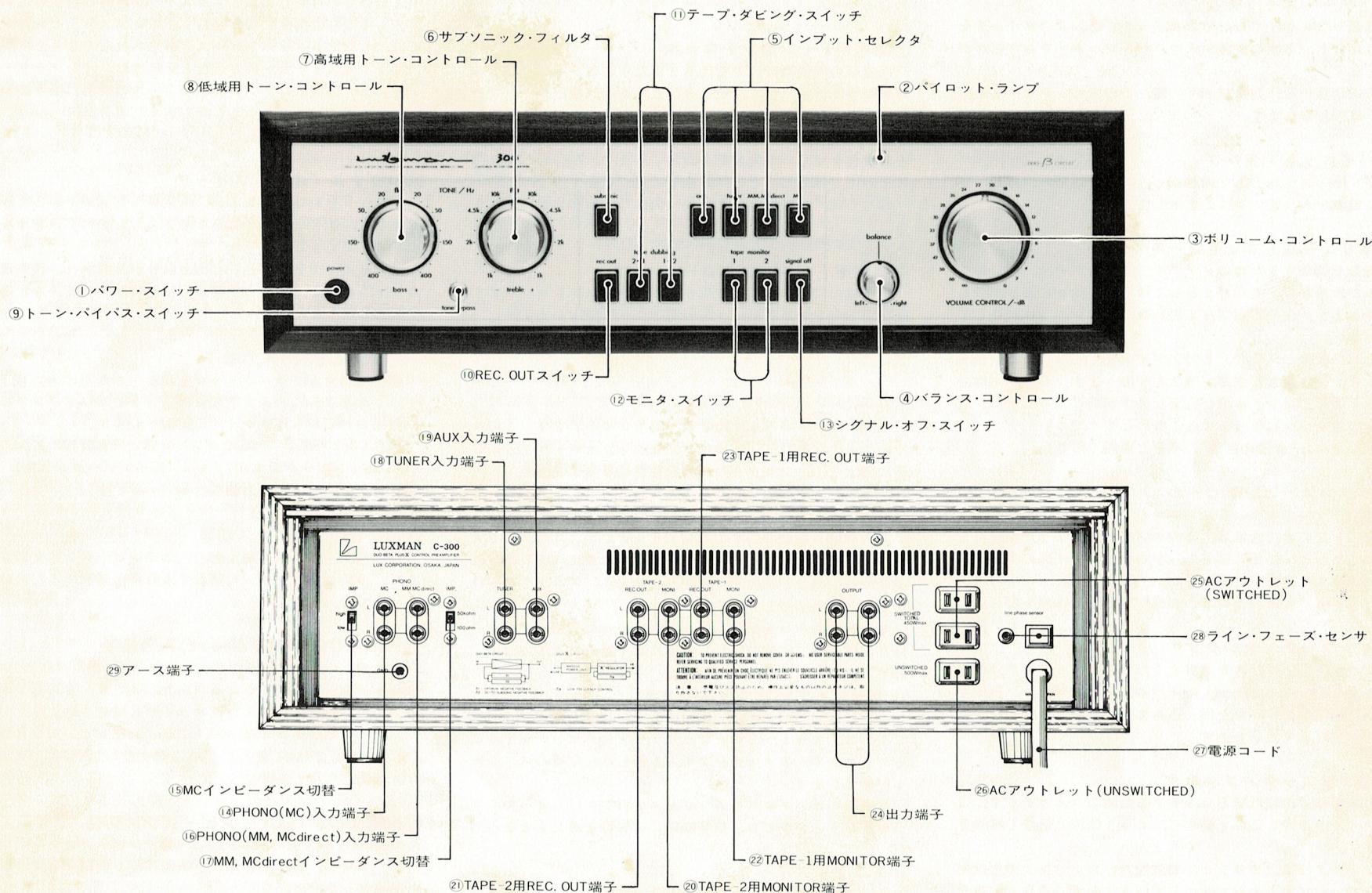
本機は、ディスク再生を最重要視する思想のもとに開発したコントロール・アンプです。アンプ回路における過剰NFBの弊害を追放した独自の回路技術デュオ・ベータを搭載しているのはもちろん、電源回路に新開発plusXを採用し、音楽の再現力を飛躍的に高めています。

アンプにおける過剰NFBと同様に、電源回路における過度な制御も音楽の再現力を抑圧しているという事実、plusXは、電源回路についても“適切な制御力”的概念を導入し、過剰制御電源の問題点を完璧なまでに追放したまったく新しい電源です。

さらに、ディスク重視の立場からは当然ともいえますが、充実したMCヘッドアンプ、キメ細かなセレクタの装備、新方式トーンコントロールなど、すべてを音質最優先の立場から開発し、採用しています。

C-300の性能をフルに引き出していくためにも、この取扱説明書をよく読んでいただきますようお願いいたします。

各部の名称



各部の名称と用途

①パワー・スイッチ

電源をON, OFFするためのスイッチです。このスイッチを押し込むと、本機に電源が入り、パイロット・ランプ②が点灯します。

この状態から、さらにもう一度、このスイッチを押し込むと、電源が切れます。

②パイロット・ランプ

パワー・スイッチ①を入れると、このランプが点灯し、本機に電源が入っていることを示します。

③ボリューム・コントロール

音量を調整するためのノブです。このノブを左一杯に絞り切った状態から、右○にまわしてゆくと、徐々に音量が増してゆきます。自分で適切だと思われる音量レベルに調整してください。

なお、電源ON時に、このノブが大きく右○へまわされいると、急に大きな音がでることがあります。このノブは、小さく絞っておき、本機が完全な動作状態に入ってから、適切な音量レベルにセットするようにしてください。

詳しくは、“音量の調整”の項をご参照ください。

④バランス・コントロール

左右チャンネル間の音量レベルのアンバランスを補正するためのノブです。通常は、このノブを中央クリック位置にセットしておき、必要に応じて、左右チャンネル間の音量のアンバランスを調整してください。

詳しくは“音量バランスの調整”の項をご参照ください。

⑤インプット・セレクタ

プログラム・ソースを選択するためのスイッチです。MC, MM(MC direct), tuner, aux の4つのスイッチがあり、再生する入力系統のスイッチを押し込みます。選択したスイッチはLEDが点灯して表示します。

⑥サブソニック・フィルタ

可聴帯域外の超低域をカットするためのスイッチです。このスイッチを押し込むと動作し、もう一度押し込むと解除されます。

フィルタには、カットオフ周波数7HzのツインT型を採用し、パッシブ素子のみで構成していますので、音質に影響を

あたえません。

⑦高域用トーンコントロール

高音域の周波数特性を変化させるためのコントロールです。本機のコントロールは、変化をはじめる周波数をシフトするとともに、変化量も同時に増減する方式をとっています。flatのポジションから右○(+の方向)にまわすと増強され、その変化をはじめる周波数を設定できます。左○(-の方向)にまわすと減衰し、その周波数を設定できます。

詳しくは、“トーンコントロール操作”的項をご参照ください。

⑧低域用トーンコントロール

低音域の周波数特性を変化させるためのコントロールです。高域用トーンコントロール⑦と同じように動作します。

詳しくは、“トーンコントロールの操作”的項をご参照ください。

⑨トーン・バイパス・スイッチ

トーンコントロール回路を切り離すスイッチです。このスイッチを押し込むと、高域用／低域用コントロール⑦⑧の位置に関係なく、フラットな周波数特性になります。

⑩REC. OUTスイッチ

録音用出力を取り出すためのスイッチです。このスイッチを押し込んでONになると、リアパネルのREC. OUT端子⑪⑫に録音用出力が供給されます。このとき、スイッチのLEDが点灯して表示します。

もう一度スイッチを押し込んで飛び出した状態にすれば、録音用出力は、信号系統から完全に切り離されます。

⑪テープ・ダビング・スイッチ

本機にテープデッキを2台接続しておけば、このスイッチで1►2, 2►1へとかんたんにテープのダビングすることができます。スイッチを2つとも押し込んだ場合は、2►1が優先します。

この操作は、プログラム・ソースの再生とは、まったく別におこなうことができ、信号経路には影響をあたえません。

⑫モニタ・スイッチ

テープデッキからの再生をおこなうためのスイッチです。

1または2の再生しようとするスイッチを押し込むと、テープデッキからの再生に切り替わり、インプット・セレクタ⑤で選択したプログラム・ソースは再生されなくなります。

もう一度スイッチを押し込むと解除され、インプット・セレクタ⑤で選択したプログラム・ソースの再生に戻ります。

なお、スイッチを2つとも押し込んだ場合は、tape-1が優先します。

⑬シグナル・オフ・スイッチ

レコードをかけ替えるとき、再生中に電話がかかってきたときなど、ボリューム位置をそのままにして再生音をカットすることができるスイッチです。

このスイッチを押し込むと出力信号が遮断され、再生音はカットされます。もう一度押し込むと解除されて、もとの再生状態に戻ります。

⑭PHONO(MC)入力端子

中／低出力MCカートリッジを接続するための入力端子です。この端子からの入力信号は内蔵のMCヘッドアンプにより増幅されてからイコライザに接続されます。

入力インピーダンスはMCインピーダンス切替⑯によりhigh(中・高インピーダンス用), low(低インピーダンス用)と切り替えられます。入力感度は0.09mVです。

⑮MCインピーダンス切替

PHONO(MC)入力端子⑭の入力インピーダンスを切り替えて、MCカートリッジに適合する負荷を選択するためのスイッチです。

⑯PHONO(MM, MC direct)入力端子

MM型, MI型, IM型などのカートリッジ、または高出力MCカートリッジを接続するための入力端子です。この端子からの入力信号はダイレクトにイコライザに接続されます。

入力インピーダンスはMM, MC directインピーダンス切替⑰により50kΩ(MM型など), 100Ω(MC型)に切り替えられます。入力感度は2.0mVです。

⑰MM, MC directインピーダンス切替

PHONO(MC)入力端子⑭の入力インピーダンスを切り替えて、MM型, MC型にそれぞれ適合する負荷を選択するためのスイッチです。

⑯TUNER入力端子

FM/AM チューナなどを再生するための入力端子です。入力感度は140mV、入力インピーダンスは55kΩです。

⑰AUX入力端子

補助入力端子です。テレビ音声多重チューナなどを接続できます。入力感度は140mV、入力インピーダンスは55kΩです。

㉑TAPE-2用MONITOR端子

テープデッキのライン出力を再生するための入力端子です。入力感度は140mV、入力インピーダンスは55kΩです。

㉒TAPE-2用REC. OUT端子

テープデッキに録音するための出力信号を取り出すための出力端子です。出力レベルは140mV、出力インピーダンスは100Ωです。

㉓TAPE-1用MONITOR端子

㉑の端子と同じ働きをするテープデッキ再生用の入力端子です。入力感度140mV、出力インピーダンスは55kΩです。

㉔TAPE-1用REC. OUT端子

㉑の端子と同じ働きをするテープデッキ録音用の出力端子です。出力レベルは140mV、出力インピーダンスは100Ωです。

㉕出力端子

この端子と、パワーアンプの入力端子との間を2本のピンコード（シールド線）で確実に接続します。このとき、左右チャンネルをまちがえないよう、ご注意ください。

出力端子は2系統ありますが、いずれも出力レベルは標準1V、出力インピーダンスは47Ωです。

㉖ACアウトレット

併用するチューナ、プレーヤなどに電源を供給するためのAC コンセントです。㉗のアウトレット(SWITCHEDと表示)は2系統あり、本機のパワー・スイッチ①と連動します。㉘のアウトレット(UNSWITCHEDと表示)は、パワー・スイッチ①と無関係に電源が供給されています。

なお、㉗のアウトレットの最大定格は2個トータルして

450W、㉘のアウトレットでは500Wです。

㉙電源コード

この電源コードの先に付いているAC プラグをリスニング・ルームにあるAC コンセントに差し込んでください。このとき、AC プラグを差し込む方向を、ライン・フェーズ・センサで確認してください。

㉚ライン・フェーズ・センサ

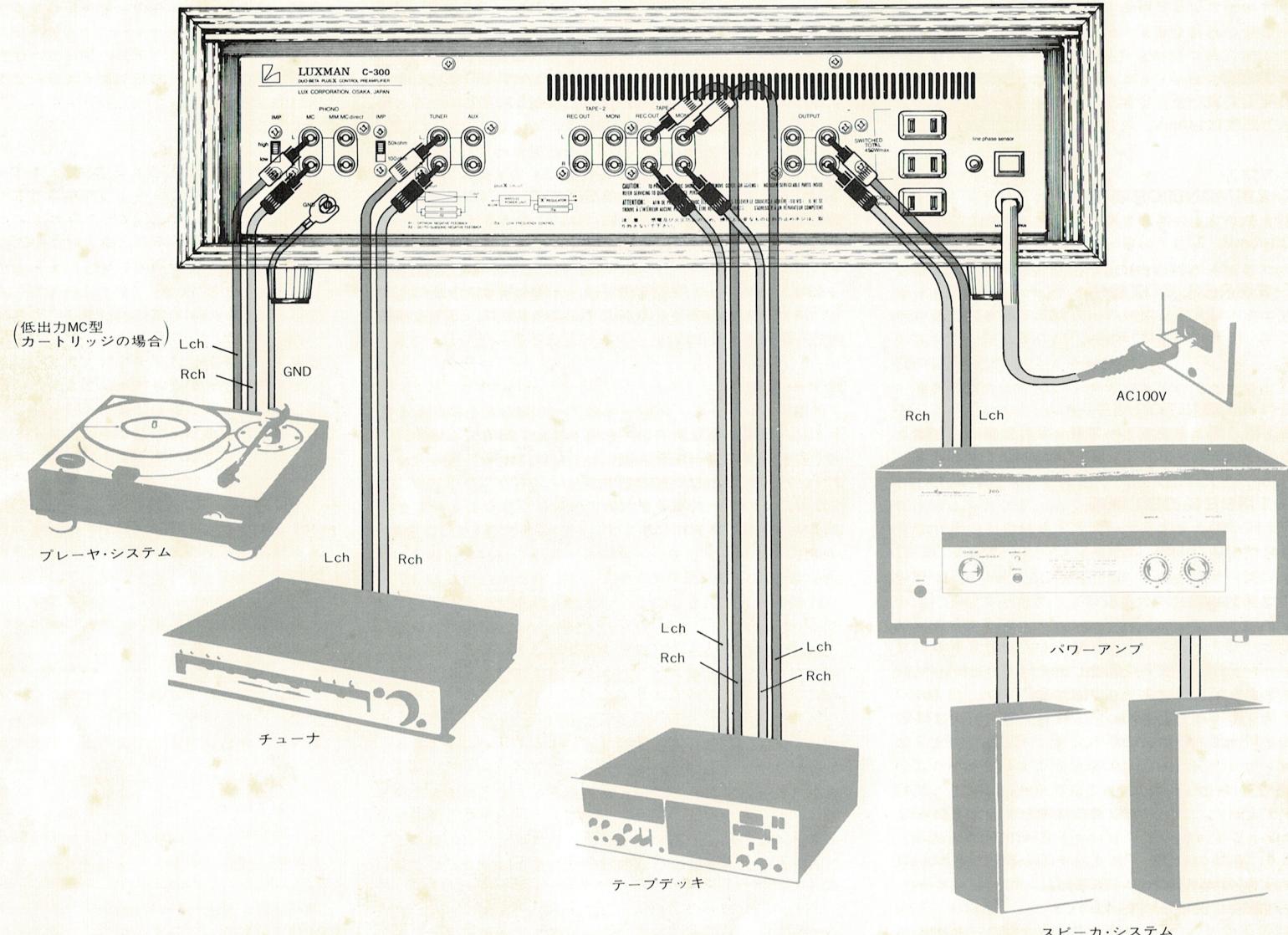
AC プラグをコンセントに差し込んでから、このセンサに指先でかるく触れます。基本的には、このときインジケーターが消えたままであれば、電源の極性は正しく接続されています。

なお、マンション等の電源では、方向を替えて点灯したり、消えたままの場合もあります。このときは、どちらの方向でも問題ありません。

㉛アース端子

併用するレコード・プレーヤのアース線などを接続します。とくに、比較試聴などアンプを切り替えて使用する場合、すべてのアンプのアースを共通にしておけば、切替時のショック・ノイズ対策として有効です。

なお、このアース端子を大地アースにつなぐことができれば、SN比の点で有利になります。



接続のしかた

基本的な接続について

本機はプリアンプです。つまり再生装置を制御する、いわばセットの総もとじめですが、スピーカを鳴らすためにはパワー・アンプと組合わせることが必要です。本機の入力側にプレーヤやテープなどを接続して、はじめてステレオ再生装置として動作するわけです。まず、これら相互間の接続が基本になります。

プレーヤの接続

レコードプレーヤには、トーンアームから出ているL(左チャンネル用)、R(右チャンネル用)の2本、あるいは2芯のコードがあり、この先にピンプラグが付いています。

このピンプラグを本機のPHONO(MM, MC direct)入力端子⑯または、PHONO(MC)入力端子⑰に(ムービング・マグネット型カートリッジ、高出力タイプのムービング・コイル型カートリッジ使用時は⑯のPHONO入力端子に、中・低出力タイプのムービング・コイル型カートリッジ使用時は⑰のPHONO入力端子に)差し込み、プレーヤとアンプの間を接続します。プレーヤによってはフォノモータやトーンアームからアース線が出ているものもありますから、これは、本機のアース端子⑯に接続します。プレーヤから出ている電源コードを本機のリアパネルにあるACアウトレット(UNSWITCHED)⑯かAC100Vのコンセントなどに差し込みます。

チューナの接続

チューナに付いているOUTPUT端子(出力端子)と本機のTUNER入力端子⑮の間をL, R2本のピンプラグ・コード(シールド線)で接続します。このとき、左右チャンネルを間違なく接続してください。なお、チューナはAUX端子⑯に接続しても、TUNER端子⑮と同様に再生できます。

チューナから出ている電源コードは本機のリア・パネルにあるACアウトレット(SWITCHED)⑯に差し込みます。このように接続し、チューナのパワースイッチをONにしておけば、本機のパワースイッチ①と連動することになります。つまり、本機のパワースイッチ①をONにすれば、チューナの電源も同時にONになり、本機の電源をOFFにすれば両方も電源が切れるわけです。

テープデッキの接続

①. モニタ端子への接続(再生)

テープデッキについているライン出力端子(LINE OUT)と

本機のMONITOR端子⑯または⑯のいずれかの間をL, R2本のピンプラグ・コードで接続します。これで、テープデッキを接続したMONITOR端子に対応する位置のモニタ・スイッチ⑯をセットすれば、テープの再生が行なえます。

②. REC. OUT端子への接続(録音)

本機のPHONO端子、TUNER端子、AUX端子などの入力端子を使って、いろいろなプログラム・ソースを再生するとき、REC. OUTスイッチ⑯を押し込んでONにすることにより、REC. OUT端子⑯から録音用出力を取り出すことができます。

テープに録音するときには、これらのREC. OUT端子とテープデッキのライン入力端子、または、AUX端子の間をL, R2本のピンプラグ・コードで接続してやればよいわけです。これでスピーカシステムから再生される音を楽しみながら、同時に録音できます。なお、これらの録音用出力信号は、コントロール機能(バランス・コントロール、ボリューム・コントロール、トーンコントロール機構)の影響はまったく受けません。

パワーアンプの接続

本機の出力端子とパワーアンプの入力端子(INPUT)の間をピンプラグ・コードで、左右チャンネルを間違えないように接続してください。このとき、左チャンネル用と右チャンネル用のピンプラグ・コードを色わけしておくと、あとで接続を確認するのに便利です。

パワーアンプとスピーカの接続

左チャンネル用と右チャンネル用のスピーカシステムが1組となってステレオ再生が行なわれます。聴く位置より向かって左側のスピーカシステムをパワーアンプの左チャンネル用スピーカ端子に、右側のスピーカシステムをパワーアンプの右チャンネル用スピーカ端子に接続します。

このとき、左右チャンネルのスピーカシステムから出てくる音波の位相が合っていないければ、自然なステレオ再生は望めません。左右チャンネルの位相を合わせるというのは、左チャンネル用のスピーカシステムの \oplus 端子とパワーアンプの \oplus スピーカ端子を、左チャンネル用のスピーカシステムの \ominus 端子とパワーアンプの \ominus スピーカ端子を接続し、右チャンネル用のスピーカシステムとパワーアンプの接続も左チャンネルと同じように接続することです。スピーカシステムの接続

を間違えると、左右チャンネルの音波の位相が逆になり、低音域が減少したり、音の定位がおかしくなるなどの状況が生じます。

なお、スピーカシステムの接続には良質のスピーカコードをお使いください。当社からもスピーカケーブル(WF103, WF105, WF110)を発売していますので、これをご利用になれば安心です。

電源の接続(ライン・フェーズ・センサについて)

家庭に供給されているいわゆる商用電源(AC100V)は、極性をもつていて片側はアースされています。C-300は、この極性も音質に影響を与えるという事実に基いて、その極性を判定するセンサを内蔵させています。これがライン・フェーズ・センサです。

電源コードの先に付いているACプラグをリスニング・ルームのコンセントに差し込んで、このセンサに指先を触れたときにインジケーターが消えたままであれば正しい極性です。

インジケーターが点灯するようであれば、ACプラグを差し込む方向を逆にしてください。

この極性を正しくあわせることにより、C-300の性能をフルに引き出すことができます。なお、マンション等のコンセントでは、差し替えても点灯したり、消えたままのことがありますが故障ではありません。これはマンション等の電源全体を大型トランス等でフローティングしていることがあるからです。

操作のしかた

本機の操作

- (1) 本機のパワースイッチ①を押し込んでONの状態になると、パイロットランプ②が点灯し、約10秒後にタイム・ミューティング回路が出力回路をONにします。これで正常な動作状態になります。
- (2) 再生したいと思うプログラムソースを接続した端子に対応するインプット・セレクタ⑤を押し込んでセットします。レコードを再生するときはMM(MC direct) またはMCのスイッチを、チューナーを再生するときはtunerのスイッチをセットします。
- (3) これで、すべての準備がととのつたわけです。ボリューム・コントロール③を左に絞り切った状態から右○にまわして行くと、スピーカー・システムから音が出はじめます。もし、音が出ないようであれば、(2)の項のインプットセレクタ⑤が正しくセットされているかどうかチェックしてください。また、モニタ・スイッチ⑪の1または2のいずれかが押し込んでONにならないかどうかチェックしてください。モニタ・スイッチ⑪がONになっていると、テープからの再生(モニタ)に切り替わり、インプット・セレクタ⑤で選択したプログラムソースは再生できなくなります。
- (4) ここで、スピーカー・システムが左右チャンネルとも鳴っているか、再生音のバランスがとれているかを確かめてください。もし、片チャンネルだけしか音が出ないようであれば、バランス・コントロール④の位置をチェックしてください。バランス・コントロール④がいずれか一方にまわし切られないと反対チャンネルの音は出なくなります。通常は、中央クリック位置にセットしてください。なお、これらのチェックをおこなっても動作しない場合は、“サービス修理に出される前に”の項を参照して、もう一度チェックをおこなってください。

MCインピーダンス切替

PHONO(MC) 入力端子⑩は、中／低出力 MC カートリッジを接続するための入力端子です。この端子からの入力信号は、内蔵の MC ヘッドアンプにより増幅されてからイコライザに接続されますが、このヘッドアンプの入力インピーダンスを切り替えるためのスイッチがMCインピーダンス切替⑯です。オルトフォン・タイプなどの低出力電圧、低インピーダン

ス型(数Ω)MCカートリッジにはlowポジションを、EMTなどの中出力電圧、高インピーダンス型(数10~100Ω)MCカートリッジにはhighポジションで適合します。なお、入力感度は、いずれも0.09mVです。

MM(MC direct)インピーダンス切替

PHONO(MM, MC direct) 入力端子⑩は、MMカートリッジまたは高出力 MC カートリッジをイコライザに直接接続するための入力端子です。このイコライザの入力インピーダンスを MM カートリッジ、MC カートリッジそれぞれに適合させるためのスイッチがMM(MC direct)インピーダンス切替⑯です。

MMポジションでは入力インピーダンスが50kΩ、MCポジションでは100Ωに切り替わって適合します。入力感度はいずれも2.0mVですから、MC カートリッジは高出力型にかけて使用することができます。中／低出力 MC カートリッジを使用する場合は、PHONO(MC) 入力端子⑩を利用してください。

音量の調整

音量レベルは、ボリューム・コントロール③で自分の一番聴きやすい位置に調整します。左一杯に絞り切った状態から右○にまわしてゆくほど音量が大きくなってゆきます。このボリュームの変化カープは、A型とほぼ同じものですから、回転角度と人間の耳に感じる音の大きさは比例関係にあります。つまり、ボリューム・コントロール③を右○にまわしてゆくときの音の大きくなる度合はごく自然です。

なお、プログラムソースの再生が終って電源を切るときは、ボリューム・コントロール③を左一杯に絞り切っておき、再び再生するときに、音量レベルを改めて設定するようすれば、急に大きな音が出てビックリすることもありません。また、レコードをかけえるときには、ボリューム・コントロール③を小さく絞っておき、カートリッジの針先がレコードに着いてから、適切な音量レベルにセットすれば、不要なショック・ノイズが発生することもありません。ちょっと面倒な操作のようですが、これが快適なプログラムソース再生のちょっとしたコツです。

音量バランスの調整

プログラム・ソースには、かなり左右チャンネル間に音量のアンバランスがあるようです。それにもかかわらずバランス・コントロールは、中央にセットしたままで動かさないで

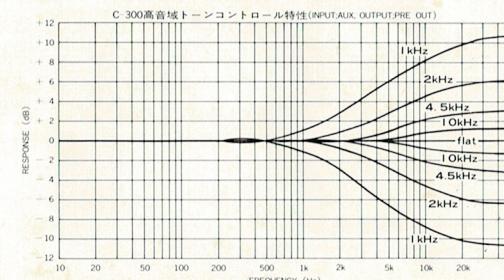
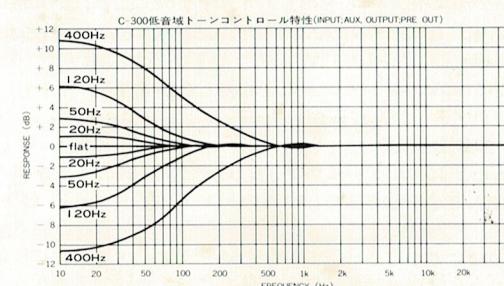
いる方が多いようです。しかしこのようなアンバランスは、積極的に補正して、完全にバランスした状態で聞く方がよいことはいうまでもありません。

左右チャンネル間の音量差は、バランス・コントロール④によって補正します。このバランスサは、左右どちらにまわしても、反対チャンネルの音は出なくなります。

パワー・アンプからスピーカー・システムまでの再生系における左右チャンネル間の音量がバランスしているかどうかは、モノーラル・ソース(チューナーの離調時ノイズなど)を再生して、左右スピーカー・システムのあたかも中央から音が出ているかのように聞こえるかどうかでチェックできます。普通は、バランスの中央(クリック・ストップ位置)でこの状態が得られます。

トーンコントロール機能の操作

トーンコントロール機能は、リスニング・ルームを含むオーディオ・システム全体の音質を補正するとき、プログラムソースの録音時と再生時の環境条件の違いを補正するとき、



テープの再生

自分の好みにあった音造りをするとき、などには欠かすことのできないものですが、その変化特性が素直でなければ、自分の思うような音質のコントロールはできません。

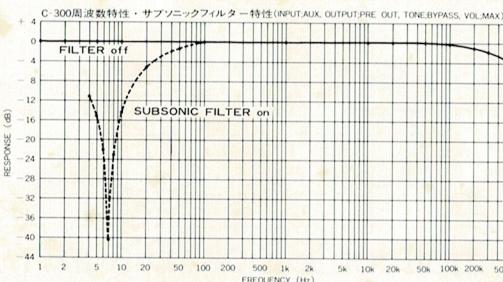
本機のトーンコントロールは、変化をはじめる周波数をシフトするとともに変化量も増減する方式ですから、効きかたが自然に、しかも効果的にコントロールすることができます。flatのポジションから右○にまわすと増強され、大きくまわすほど周波数は1kHz(treble=高域用の場合)または400Hz(bass=低域用の場合)に近付き、変化量も増大します。同様に、左○にまわすと減衰し、大きくまわすほど周波数は1kHzまたは400Hzに近付いて、減衰量も大きくなるわけです。(図参照)

なお、トーン・バイパス・スイッチ⑨を押し込むと、このトーンコントロールは切り離され、コントロールの位置に関係なくフラットな周波数特性となります。

サブソニック・フィルタの操作

レコードのソリ、トーンアームの共振などによって生じる超低域ノイズは数Hzという可聴帯域外(20Hz以下)でも、スピーカのコーンを動かすなどして有害な混変調歪みの原因ともなります。サブソニック・フィルタは、これらの超低域ノイズを有效地に除去するものです。

本機のサブソニック・フィルタは、抵抗・コンデンサというパッシブ素子のみで構成したツインT型を採用しています。音質に影響を与えることなく、シャープに不要ノイズだけをカットします。カットオフ周波数は7Hzに設定しています。



モニタ端子からの再生

テープデッキに付いているライン出力端子(LINE OUT)と本機のMONITOR端子⑩⑪のいずれかの間をL,R2本のピンプラグ・コードで接続します。これで、テープデッキを接続したMONITOR端子に対応する位置(1または2)のモニタ・スイッチ⑫をセットすれば、テープの再生が行なえます。

本機には2系統のMONITOR端子が設けられていますので、2台までのテープデッキをそれぞれMONITOR端子に接続しておけば、モニタ・スイッチ⑫で簡単に選択することができます。

なお、1および2のスイッチを両方とも押し込んだ場合は、1のスイッチ(TAPE-1)が優先します。

AUX端子からの再生

●AUX端子またはTUNER端子を使ってテープの再生をすることは、テープデッキのライン入力端子、または、AUX端子は遊ばせておいてください。この状態で本機の録音用出力端子(REC. OUT)と接続すると信号がフィードバックして発振現象を生じることがあります。

テープデッキのライン出力をピンプラグ・コードで本機のAUX端子⑬に接続し、この端子に対応する位置のインプット・セレクタ⑮をセットすれば、テープの再生が行なえます。なお、TUNER端子を使わないときには、この端子にテープデッキのライン出力を接続すれば、これでもテープの再生が行なえます。

テープの録音

本機の入力端子(PHONO, TUNER, AUX)を使ってプログラム・ソースを再生するとき、これらの信号をテープに録音することができます。

通常は、信号系統からREC. OUT(録音用出力端子)は完全に切り離された状態となっています。これは配線の引きまわしや、負荷の接続による影響を信号系から完全に遮断するためです。

テープの録音をおこなうときには、本機のREC. OUTスイッチ⑩を押し込んでONにします。これで、インプット・セレクタ⑮で選択したプログラム・ソースが録音用出力となって、REC. OUT端子⑩⑪に供給されます。本機には、2系統のREC. OUT端子が用意されていますので、2台のテープデッキに同時に録音することも可能です。

テープへの録音をおこなわないときには、もう一度REC. OUTスイッチ⑩を押し込んで、飛び出した状態に戻してください。録音系の配線および負荷は完全に切り離されます。

同時再生モニタ

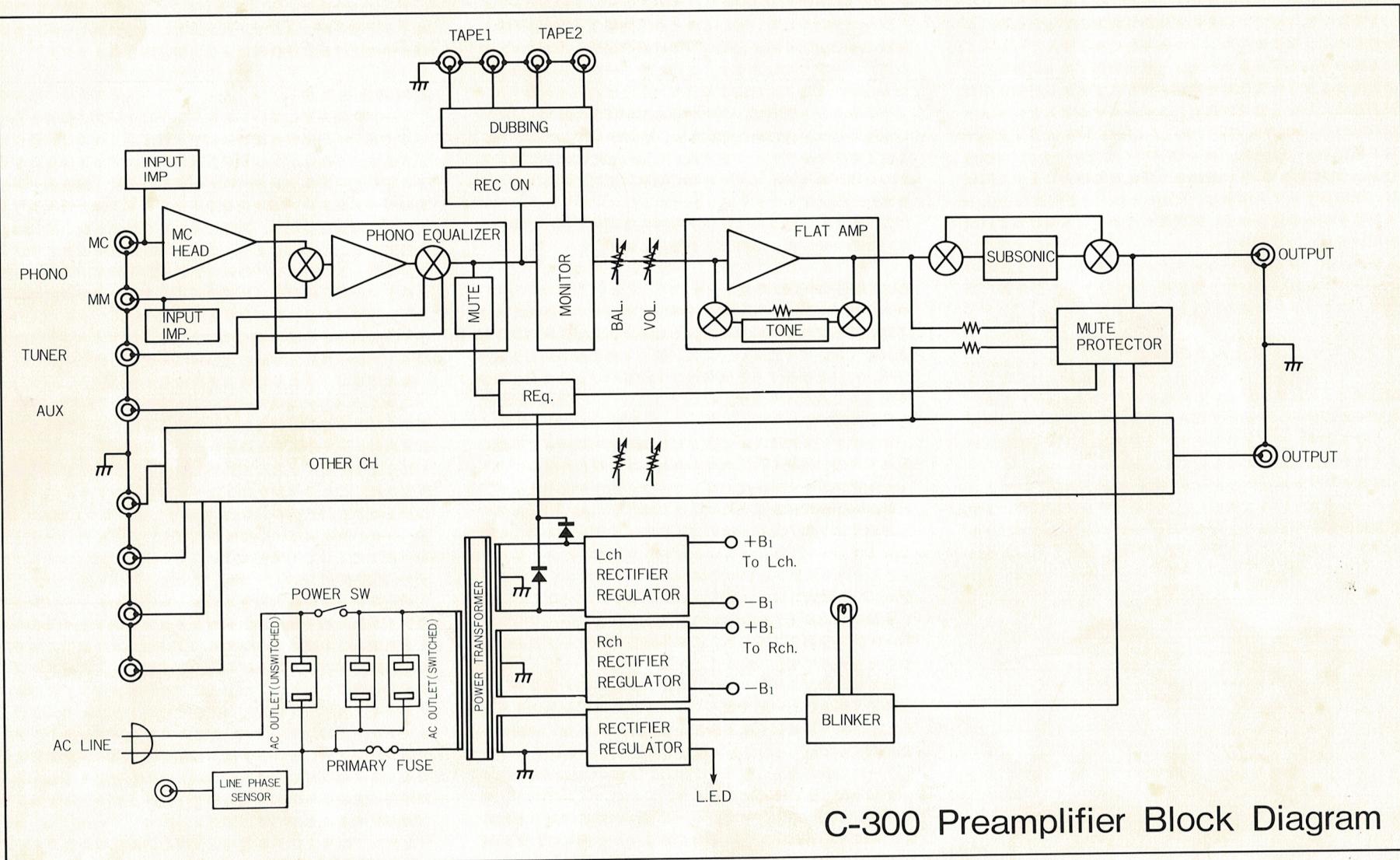
テープに録音をしているとき、完全にテープに録音されているかどうかを確かめることができます。ミスのない録音ができます。これは、3ヘッド方式のテープデッキだけにできます。3ヘッド方式のテープデッキは、録音系と再生系のヘッドやアンプが独立していますから、録音系を使ってテープに録音しながら、同時に再生系で録音された直後の音を再生することができます。これを同時再生モニタと呼びます。このときは、テープの録音とテープの再生が同時に行われますから、録音のための接続と再生のための接続を同時に行なっておかなければなりません。テープデッキの入力端子(LINE-IN)と本機のREC. OUT端子、テープデッキの出力端子(LINE-OUT)と本機のMONITOR端子の間をそれぞれ、L,R2本のピンプラグ・コードで接続します。

モニタ・スイッチ⑫のテープデッキの接続してあるMONITOR端子に対応するもの(1または2)を押し込んでセットするとそれぞれのテープデッキに録音された信号が、モニタースイッチ⑫をもう一度押し込んで飛び出した状態に戻すと原信号が再生され、これらの音を聴き比べながら録音できます。ただし、このとき、録音済み信号は原信号と比べて少し遅れて(録音ヘッドの間隔分だけ)再生されます。

テープのダビング

テープデッキが2台以上あれば、おののおののテープデッキのライン出力端子(LINE-OUT)、ライン入力端子(LINE-IN, AUX)と2系統ある本機のMONITOR端子、REC. OUT端子の間をそれぞれL,R2本のピンプラグ・コードで接続し、ダビングスイッチ⑪の該当するもの、たとえば、テープデッキ1からテープデッキ2へテープのダビングをしたいときは、1▶2のスイッチを、また、テープデッキ2からテープデッキ1へテープのダビングをしたいときは、2▶1のスイッチを押し込んでセットすればピンプラグ・コードをつなぎ替えることなく、簡単に一方のテープから他方のテープへとテープのダビング(複写)することができます。

なお、このスイッチを2つとも押し込んだ場合は、2▶1が優先となります。



C-300 Preamplifier Block Diagram

サービス修理に出される前に

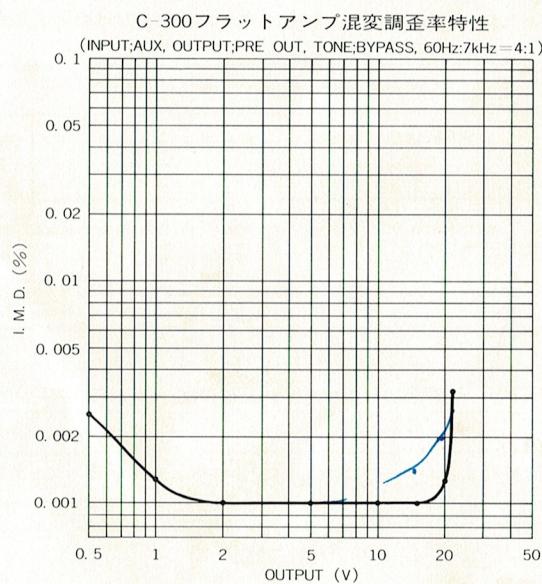
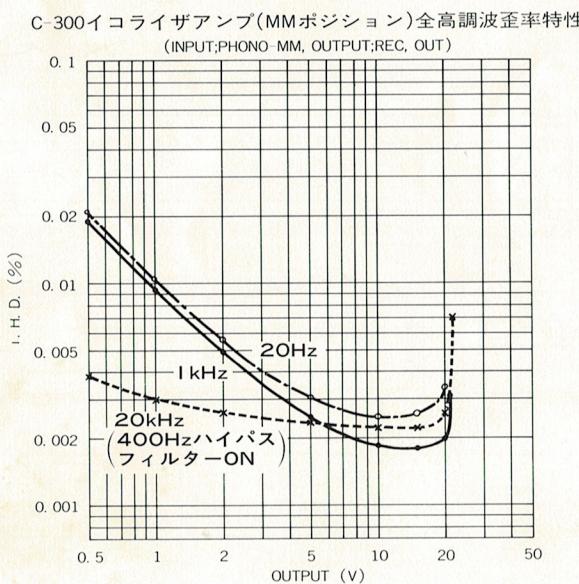
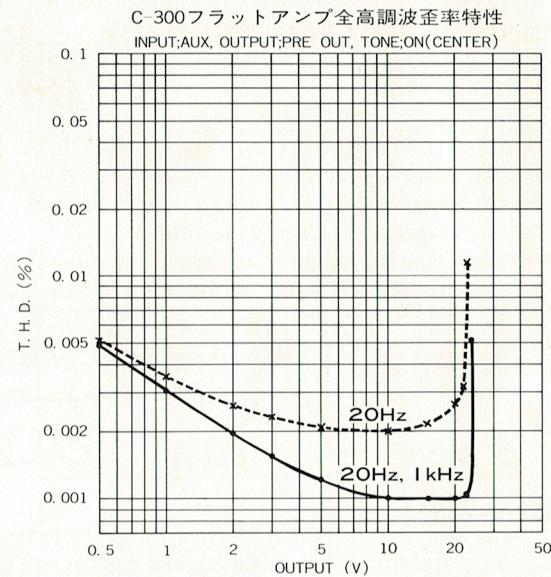
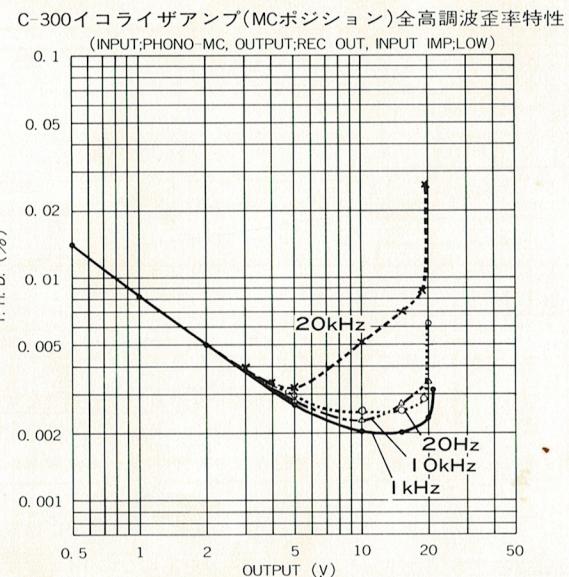
ご使用中に、何かの拍子に、ノブが動いたり、スイッチが押されたり、接続がはずれたり、などして故障と間違えることがあります。下記のトラブル・シュー
ティングをお読みになり、一通りチェックしてみてください。

それでも直らないときは、お買い上げ販売店もしくは弊社サービス・ステーシ
ョンまで修理をご依頼ください。なお、サービス修理の依頼を受け、お伺いした
場合、故障でなくても点検代と出張費を頂くこともあります。

症 状	原 因	対 策
パワースイッチをONにしてもパイロットランプが点灯しない。	・ACプラグがACコンセントからはずれているか、しっかりと差し………・電源コードをACコンセントに確実に差し込む。 込まれていない。	
パイロットランプは点灯するが、左右チャンネルとも音が出ない。	・ショートピンがREC.OUT端子に差し込まれている。……………・REC.OUT端子からショートピンを抜きとり、そのショートピンは大切に保管しておく。 ・モニタ・スイッチの1または2が押し込んである。……………・モニタ・スイッチを押し込んでもともに戻す。 ・チューナ・デッキなどの出力レベルセットが左一杯に絞り切ら………・チューナ・デッキなどの出力レベルセットを適切な位置にセッ れている。 ・インプット・セレクタが再生したいプログラムソースの位置に………・再生したいと思うプログラムソース位置にセットしなおす。 セットされていない。 ・使用機器間の接続が間違っている。……………・各入出力機器との接続を確かめ、確実に行う。 ・ボリューム・コントロールが絞り切られている。……………・ボリューム・コントロールを適切なレベルになるように右にまわす。	
片チャンネルだけ音が出ない。	・バランス・コントロールが左または右のどちらかにまわし切ら………・バランス・コントロールを中央クリック位置にセットする。補 正するときだけ、必要な分だけ左右にまわす。 ・使用機器間の接続が片側だけ不完全。……………・ピンプラグを確実に接続する。	
チューナだけが片チャンネル音が出ない。	・ピンプラグ・コードがチューナのマルチバス検出用端子に接続………・チューナの出力端子に正しく接続する。 されている。	
ハム音（ブーンまたはジーというノイズ）が 出る	・ピンプラグのアース側が入出力端子と確実に接触していない。……………・ピンプラグが入出力端子と確実に接触するように、しっかりと差 し込む。 ・各入力機器との接続用コードにシールド線が使われていない。……………・接続用コードにシールド線を使ったピンプラグコードを使用する。 ・プレーヤから出ているアース線が本機のアース端子に接続され………・プレーヤからのアース線を確実に接続する。 ていない。 ・カートリッジとシェル又は、シェルとトーンアームの接続が不………・カートリッジ、シェル、トーンアームの接続を確認し、確実に 完全に取り付ける。	

ご 注意 ●上記のチェックのほか、本機を接続したパワーアンプに対してもチェックを行ってください。

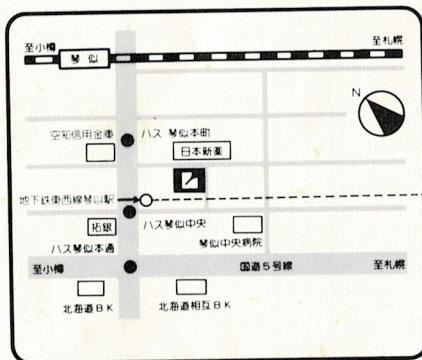
特性図



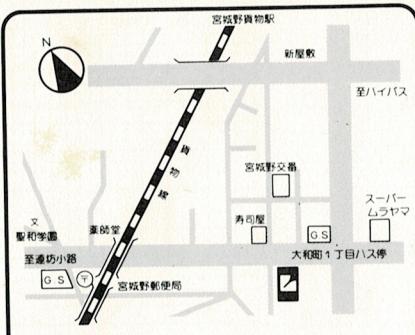
規格

出力電圧	pre out ; 標準1V, 最大20V rec. out ; 標準140mV, 最大20V
出力インピーダンス	pre out ; 47Ω rec. out ; 100Ω
高調波歪率	phono(MM, MC) ; 0.005%以下(rec. out ; 140mV, 20~20kHz) tuner, aux ; 0.005%以下(pre out ; 1V, 20~20kHz) monitor-1, -2 ; 0.005%以下(pre out ; 1V, 20~20kHz)
混変調歪率	phono(MM, MC) ; 0.002%以下(rec. out ; 140mV, 60Hz; 7kHz=4:1) tuner, aux ; 0.002%以下(pre out ; 1V, 60Hz; 7kHz=4:1) monitor-1, -2 ; 0.002%以下(pre out ; 1V, 60Hz; 7kHz=4:1)
周波数特性	phono ; 20~20, 000Hz(±0.2dB以内) tuner, aux ; 0.5~140, 000Hz(-0.5dB以内) monitor-1, -2 ; 0.5~140, 000Hz(-0.5dB以内)
入力感度	phono(MC) ; 0.09mV (pre out ; 1V) phono(MM) ; 2.0mV tuner, aux ; 140mV monitor-1, -2 ; 140mV
入力インピーダンス	phono(MC) ; high(100Ω), low(50Ω) phono(MM) ; MM(50kΩ), MC(100Ω) tuner, aux ; 55kΩ monitor-1, -2 ; 55kΩ
S/N比	phono(MC) ; -148dB/V(入力換算雑音)
(IHF-A補正, 入力ショート)	phono(MM) ; 80dB tuner, aux ; 100dB monitor-1, -2 ; 100dB
トーンコントロール	ターンオーバ周波数シフト式(高域用, 低域用)
サブソニック・フィルタ	7Hz(ツインT型)
付属装置	MCインピーダンス切替(high, low) MM, MCdirectインピーダンス切替(MM, MC) トーン・バイパス・スイッチ REC. OUTスイッチ テープモニタ2系統(1, 2) テープダビング(1▶2, 2▶1) ライン・フェーズ・センサ ACアウトレット(SWITCHED2系統; total max. 450W, UNSWITCHED1系統; max. 500W)
消費電力	25W(電気用品取締法の規定による)
電源電圧	AC100V(50Hz/60Hz)
外形寸法	478(幅)×163(高)×384(奥行)mm
重量	9kg

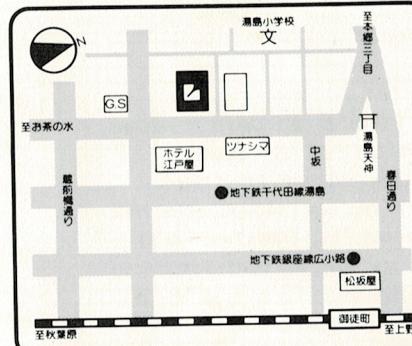
アフターサービスと品質保証について



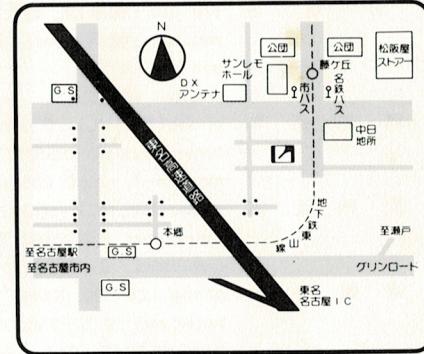
札幌営業所・サービスステーション
〒063 札幌市西区琴似1条4丁目
TEL. 011(641)2271



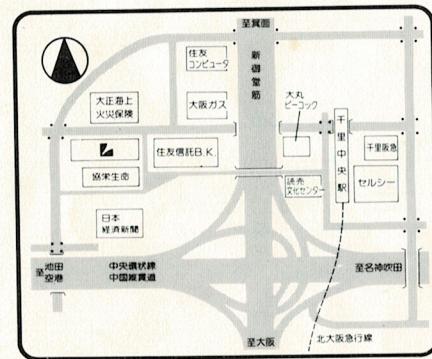
仙台営業所・サービスステーション
〒983 仙台市太和町1-3-3
TEL. 0222(94)6262



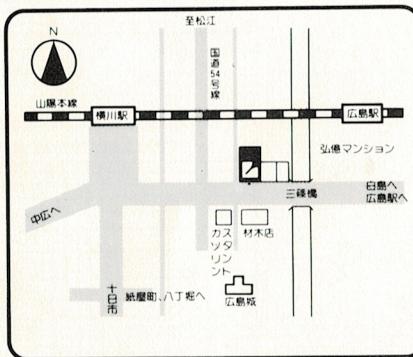
東京営業所・サービスステーション
〒113 東京都文京区湯島2-23-13
<東京営業所> TEL. 03(833)7691(代)
<サービス直通> TEL. 03(83)6667~8



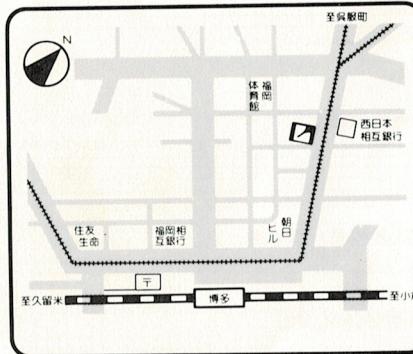
名古屋営業所・サービスステーション
〒465 名古屋市名東区藤見ヶ丘46(藤見ヶ丘ビル)
TEL. 052(771)1524



大阪営業所・サービスステーション
〒565 豊中市新千里西町1丁目1-1
TEL. 06(834)1131



広島営業所・サービスステーション
〒733 広島市楠木町1丁目7-10
TEL. 0822(92)2281



福岡営業所・サービスステーション
〒812 福岡市博多区博多駅前2丁目1-9
TEL. 092(431)7528

ラックス製品のアフターサービスは全国主要都市に設置されている7ヶ所の営業所サービス・ステーションにて行っております。万一、本機が故障したときは最寄りのサービス・ステーションまでご連絡ください。状況に応じてお持ち込みまたは、出張による修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもありますが、ご

容赦ください。

ラックス製品の保証期間は購入日より起算して1年間です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無償修理させていただきます。また、トランクの自然故障に対しては10年間の保証期間を設けています。保証書は、本機のパッケージケース内に入っていますので、お買上げ販売店で、

販売年月日、店名の記入捺印（または、領収書などこれに代るもの）を受けてください。保証期間内の修理お申しつけの範囲は必ずこの保証書を添えてください。保証期間外、保証書なき場合の修理については実費でお引受けします。

*規格及び外観は予告なく変更する事があります。



ニッケン株式会社

本社：豊中市新千里西町1丁目1-1

565

MA0137-1180-(F)